

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「誠実明朗」「自主創造」「友情協力」の校訓のもと、明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する、人間性豊かな人格の完成をめざす。生徒と教職員との信頼関係をもとにした専門教育を通じて、勤労と責任を重んじ、幅広い技術をそなえた社会人を育成する。

1. 基礎学力と専門的な技能・技術を修得し、社会の中で主体的に生きる力を育てる。
2. 協調性、規範意識を身につけ、周囲から求められる社会人を育てる。
3. 地域社会での存在意義を高め、生徒が誇りをもてる学校づくり。

## 2 中期的目標

1. 社会の中で主体的に生きる力を育てる。
  - (1) 基礎的・基本的な学力の育成
    - ア 授業での ICT 活用をすすめ、基礎学力の充実を図る。
    - イ 授業改善を図るとともに、授業内容・授業形態の工夫により、確かな学力を身につけさせる。
 ※ H31 年度には ICT を活用した授業の生徒の認知度を 80%に向上する。
  - (2) 資格取得を学習の核に据え、主体的に自己の将来を切り拓く能力を育成
    - ア 授業においても技能・資格取得を進め、学習意欲の喚起と、有用な技能修得を図る。
 ※ 主要な資格について、H31 年度には卒業生徒の取得率を 100% (一人一つ以上) とする。
  - (3) 在学中の就労を促進するとともに、多様な進路実現をサポート
    - ア 未就労生徒に対し、個別指導と個別支援による就労促進をおこなう。
    - イ キャリア教育、職業教育を充実させ、社会で自立できる力を育成する。
    - ウ 正規雇用となる生徒を 80%以上とし、年内 (12 月末) 就職内定率 90%を目標とする。
 ※ 学校斡旋による就職を希望する生徒を増やし、就職内定率 100% (年度末) を維持する。
2. 周囲から尊敬される社会人を育てる。
  - (1) 授業規律の確立
    - ア 組織的な指導体制を確立し、良好な環境と授業規律の確立を図る。
 ※ 良好な学習環境を実現し、H31 年度には生徒の満足度 80%以上を目標とする。
  - (2) 協調性や社会性の育成
    - ア 魅力ある学校行事、部活動を振興し、学校生活の魅力を高め、集団活動への参加促進を図る。
 ※ 出席率の大幅改善と H31 年度には 1 年次生の進級率 70%以上を目標とする。
3. 誇りをもてる学校づくり
  - (1) 地域連携を進め、学校への高い評価を獲得
    - ア 生徒による地域活動の実施、公開講座の実施など、地域から見える、特色ある学校の取り組みを推進する。
 ※ 保護者アンケートにおいて、本校の特色ある取り組みへの認知度で 75%以上の評価を目標とする。
  - (2) 広報活動の充実により、学校の取り組みを広く周知
    - ア 学校ホームページの充実、地域自治会での広報などを積極的に展開する。
 ※ 公開講座、学校見学会等への参加者を H31 年度には年間のべ 50 名以上とする。
  - (3) 人材育成により、優れた教育環境の提供
    - ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と優れた指導体制づくり。
 ※ 教育課程の改革と意欲的な指導体制の確立

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○学校教育自己診断について</p> <p>* 「◎」「○」「△」は、数値または変化に対する学校の評価</p> <p>1. 学校生活 ※ (肯定率(%)) H. 28 → H. 29</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒評価：この学校には、他の学校にない特色がある 75.0% → 78.4% (○)</li> <li>・生徒評価：授業はわかりやすく楽しい 65.8% → 72.7% (◎)</li> </ul> <p>※工科高校としての特色や少人数指導に対する満足度は高く、学校生活の満足度は向上している。</p> <p>2. 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒評価：授業で、自分の考えをまとめたり発表する機会がある。 56.0% → 63.6% (○)</li> <li>・生徒評価：教え方に工夫をしている先生が多い 72.4% → 86.3% (◎)</li> <li>・生徒評価：ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会がよくある 78.6% → 80.3% (○)</li> </ul> <p>※各教員が授業改善・学力向上に向けて取り組み、学習指導に関する満足度は高い。</p> <p>3. 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒評価：先生は、お互いに協力し合って、責任をもって授業やその他の仕事に当たっている 76.0% → 69.2% (△)</li> </ul> <p>※授業に対する満足度は高いが、個々の教員がその他の仕事に関して責任ある行動を行っている姿が生徒には伝わっていない。原因を分析し、分掌・教科の壁を越えた指導・協力体制を構築する。</p>	<p>第 1 回 (6 月 16 日)</p> <p>○H29 年度学校経営計画について</p> <p>准校長より、学校経営計画 中期的目標について、目標達成の時期、数値目標について説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「働き方改革」が推進される社会において、これから社会に出る若者には企業の情報や社会の流れなどを把握したうえで就職先を決定する必要がある。</li> <li>・応募前職場見学後に、他の職場 (企業) に希望を変更する生徒がいるとのことだが、別の職場を希望する理由は何か。</li> <li>・教育改革が行われるなか、授業はどのように変わっていくのか。</li> <li>・生徒主体の授業の場合、教師の役割はどうなるのか。</li> <li>・これからの学校教育では知識の習得よりも、人間関係の構築やコミュニケーション能力の育成が重要になるのか。</li> <li>・今年の求人数はどうなるのか。</li> </ul> <p>第 2 回 (11 月 17 日)</p> <p>各分掌等から学校の様子、生徒の活動、第 1 回授業アンケートについて説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席状況等が大切。(考査の)成績だけが良くてもダメ。平常点などの基準をあまり細かくすると教師がそれに縛られすぎて、やりにくくなる。</li> <li>・情報収集能力がすさまじく、正しい情報の取捨選択ができてきているのか。正しいインターネットの使い方を身につけさせてほしい。</li> <li>・携帯電話が発達しすぎて怖い。携帯電話にばかり時間を取られて、良くないと思いつながりながら生活している。正しい使い方を指導してほしい。</li> </ul>

<p>4. 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒評価：将来の進路や生き方について考える機会がある 78.9% → 76.9% (○)</li> <li>生徒評価：学校は、進路についての情報を提供してくれる 72.9% → 81.2% (◎)</li> </ul> <p>※キャリア教育の更なる充実を目標とし、進路指導を充実させる。</p> <p>5. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒評価：学校で事件・地震や火災などがおこった場合、どう行動したらよいか知らされている 74.6% → 72.3% (○)</li> <li>保護者評価：学校は、保護者や地域の人が授業に参加する機会を設けている 57.4% → 61.1% (○)</li> <li>保護者評価：この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある 54.9% → 40.9% (△)</li> </ul> <p>※災害時の行動について日常的に指導し、生徒の安全について取組みを行う。授業参観週間の設定、HP等を活用した広報活動の充実。</p>	<p>第3回(2月2日)</p> <p>○H29年度学校経営計画について 准校長より、学校経営計画 中期的目標の目標達成状況について説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒数の減少や働きながら学ぶ場としての本来の役割が変化している定時制の在り方は今後どうなるのか。統廃合、さらには定時制が廃止になるのでは。</li> <li>次年度からの学校運営協議会について、全日制と定時制の規模はあきらかに違う。同じ運営を進める教育委員会の考え方に疑問。規模が小さい定時制には無理がある。</li> <li>小・中学生時代の職業教育が十分ではない。若者の早期離職率の高さと関係しているのではないのか。教員自身も仕事を知り、高校生に多くの職種を見せることが大切。</li> <li>技術職は重要だが、工業高校への進学率が低下している。自然体験等の機会が減り、子どもたちの技術への興味が薄れている。女子にも興味を湧くような工業教育も必要。</li> <li>現代の産業にはコンピュータが不可欠。作業着を着て働くことが減っている。そのような状況で工科高校の存在意義が気になる。</li> </ul>
--	---

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会の中で主体的に生きる力を育てる	<p>(1) 基礎的・基本的な学力の育成 ア 授業で効果的なICT活用をすすめ、基礎学力の充実</p> <p>(2) 資格取得を学習の核に据え、主体的に自己の未来を切り拓く能力を育成 ア 授業においても技能・資格取得を進め、学習意欲の喚起と、有用な技能の修得を図る。</p> <p>(3) 正規就職の拡大 ア 個別指導と個別支援による就労指導</p>	<p>(1) ア①パッケージ研修の取り入れるとともに、開講科目のすべての授業でICT活用授業を実施し、授業改善をすすめる。  ②授業において、確認テストを実施し、基礎の定着を目標とする。</p> <p>(2) ア①溶接技術、CAD、計算技術等、授業内容と関連した資格取得に関わる知識・技能の指導を充実させる。  ②資格取得をめざした講習・個別指導を実施し、生徒個別の支援をおこなう。</p> <p>(3) ア①キャリアコーディネータ等との連携による求人開拓、個別指導を継続的に強化し、卒業時に正規就職できるよう支援をおこなう。</p>	<p>(1) ア①電子黒板機能・視聴覚教材を活用した授業の実施。(ICTを用いた授業が実施できているという生徒評価をH28年度の78.6%から80%以上とする。) ②各教科で繰返し確認テストを実施し、単位取得者の増加をはかる。(授業が楽しく分かりやすいという生徒評価をH28年度の65.8%から68%以上とする。)</p> <p>(2) ア①授業の一環として検定を実施、主な資格取得数の増加をはかる。(卒業年次の生徒の70%が資格を取得することを目標とする。) ②3級自動車整備士試験受験者、合格者の増加(受験者H28年度の4名から5名以上、合格者3名以上)</p> <p>(3) ア①生徒の応募前職場見学を50%以上実施する。 ②正規就職希望者 80%以上、年内内定率 90%以上とする。 ③将来のキャリアを見通した進学の実現。進学志望生徒の合格率を100%とする。</p>	<p>ア①学校教育自己診断結果における「ICTを用いた授業が実施できている」は、80.3%。評価指数を0.3%上回った。若手教員を中心にICT機器を用いた授業が行われ、授業改善が進みつつある。(○) ②学校教育自己診断結果における「授業が楽しく分かりやすい」は72.2%。評価指数を4.2%上回った。ICT機器の活用、少人数指導など、個々の生徒に適した授業を行った。次年度においても基礎学力の向上を基本に置き、単位取得者の増加に取組みたい。(◎)</p> <p>(2) ア①卒業年次生徒の70%が資格を取得した。 ②「3級自動車整備士」試験については、4名の生徒が受験。合格者は4名。各生徒が卒業までに複数の資格を取得できるよう、指導を継続したい。(◎)</p> <p>(3) ①進路指導部、担任の協力があり、応募前職場見学の実施率は129%。目標とした評価指数を大きく上回った。(◎) ②正規就職希望者が93%となり、評価指数+13%と大きく上回った。ただし、年内内定率 82%は目標評価指数を8%下回った。(○) ③進学志望生徒については100%の合格率。入学時からのキャリア教育をさらに充実し、学校斡旋就職を希望する生徒については応募前職場見学を実施し、次年度も50%以上を維持したい。(◎)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 周囲から尊敬される社会人を育てる</p>	<p>(1) 授業規律の確立 ア 組織的な指導体制を確立し、良好な環境と授業規律の確立</p> <p>イ 生徒が主体的に授業に参加し集中して授業に取り組む姿勢を育成</p> <p>(2) 協調性・社会性の育成 ア 学校生活の魅力を高め、集団生活への参加促進</p>	<p>(1) ア①全教職員による生活指導体制を確立し、指導事例に即応し、良好な学習環境を維持する。</p> <p>②規範意識、社会性育成のための講座等の指導機会を適宜設け、主体的に社会人としてのマナーを獲得させる。</p> <p>③高校生活支援カードを活用し、家庭および中学校・外部機関と連携を進め、きめ細かい支援を充実させる。</p> <p>イ 授業中に発表や話し合いの機会を多くする。</p> <p>(2) ア①部活動を活性化、注目される成果をあげ、生徒の活動参加を促す。</p> <p>②秋季発表大会などの成果発表機会に積極的に参加し、生徒の能力を引き出す。</p>	<p>(1) ア①落ち着いた雰囲気为学校づくりをまい進する。(先生は責任を持って授業やその他の仕事に当たっているという生徒評価をH28年度の76.0%から80%以上とする。)</p> <p>②欠席の多い生徒、中途退学する生徒の減少(欠席の多い生徒25名以下、年間退学者平成28年度8名を7名以内)、懲戒件数(平成28年度7件)を維持する。</p> <p>③中学校・外部機関との連携強化拡大(中高連絡会参加・学校訪問実施をH28年度の延べ20校を25校以上とし本校も教育内容を周知する。)</p> <p>イ①授業中の発問や話し合いを多くする。(授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会があるという生徒評価をH28年度の56.0%から60%以上とする。)</p> <p>(2) ア①部活動参加生徒を増加させるとともに、質的向上を図る(定通実業総体総合3位以内を目標とする。)</p> <p>②秋季発表大会の生活体験発表、舞台発表、展示発表にH28年度の延べ20名参加を維持する。</p>	<p>(1) ア①生徒向け学校教育自己診断結果における「先生は責任を持って授業やその他の仕事に当たっている」は69.2%。評価指数を10.8%下回り、目標に達していない。(△) 低評価となっている原因を分析し、組織的な指導体制の確立を目標としたい。</p> <p>②30日以上長期欠席生徒は3名。目標とする評価指数12名を下回った。(○)</p> <p>年間退学者数は12名となり、平成28年度よりも4名増となっている。退学者の中には長期欠席によるもの2名、就職1名、高等学校卒業程度認定試験利用による進路実現1名を含む。(△)</p> <p>懲戒件数3件。評価指数を4件下回った。落ち着いた学校生活を送る生徒が増えている。(◎)</p> <p>③中高連絡会等参加8校、学校訪問実施校は22校となり、本校の教育内容の周知・連携の強化への取り組みができている。(○)</p> <p>イ①生徒向け学校教育自己診断結果における「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」については63.6%となり、評価指数を3.6%上回った。次年度も60%以上を目標に取り組みたい。(○)</p> <p>(2) ア①部活動参加生徒の増加については、仕事との関係から日常的に活動できる生徒が少なく、現状維持も困難な状態。今年度、剣道部・バドミントン部が全国大会出場。テニス部、実定総体優勝(3連覇達成)。自動車部エコデンレース、ワイパーモーター部門、全国2位の成績を修め、質的向上においては大変満足できる結果となった。(○)</p> <p>仕事・学業・部活に頑張る生徒を今後も支えたい。</p> <p>定通実業総体 総合6位 (△)</p> <p>②秋季発表大会においては、昨年不参加であった生活体験発表に1名出場。展示発表部門に写真部(3名)が作品を出品し、1名が奨励賞を受けた。</p> <p>本年度は授業内で作成した作品の展示発表を行わなかったことから、延べ20名の生徒参加は維持できなかった。(△)</p> <p>次年度も生活体験発表大会、展示発表については参加を目標に取り組みを行いたい。</p>
---	--	--	--	---

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 誇りをもてる学校づくり</p>	<p>(1) 地域連携を進め、学校への高い評価を獲得 ア 生徒による地域活動の実施、公開講座の実施</p> <p>(2) 学校の取り組みを広報 ア 地域での広報を積極的に展開</p> <p>(3) 優れた教育環境の提供 ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と優れた指導体制づくり</p> <p>イ 安全安心な学校づくり</p>	<p>(1) ア①生徒による学校周辺巡回清掃等の地域連携活動を実施する。</p> <p>②夏休み工作教室を、希望があれば出張教室にするなど拡大・充実する。</p> <p>③周辺地域公共機関への実習作品の寄贈をすすめる。</p> <p>(2) ア①学校行事を、保護者・地域に公開し、広報を実施する。</p> <p>②保護者・生徒のニーズに合致した学校ホームページの改善</p> <p>(3) ア①工業系科目の充実を図り、生徒意欲を持って取り組める教育課程の再編成をすすめる。</p> <p>②授業公開、研究授業参加、専門研修派遣を実施し、授業力の向上と、指導内容の刷新を図り、優れた学習環境を実現する。</p> <p>③系列会議で生徒状況の把握、授業の工夫の交流などを進めてゆく。</p> <p>イ①防犯防災訓練、交通安全教育及び研修の実施</p> <p>②安全点検の実施</p>	<p>(1) ア①地域連携活動を年間通じて実施する(年間3回以上)(地域や保護者とかかわる機会があるという生徒評価を H28 年度の 57.4%から 65%以上とする。)</p> <p>②地域小学生対象の出張工作教室を実施する。(H28 年度の参加者数の延べ 20 名以上とする。)</p> <p>③地域機関への作品寄贈を H28 年度 2 件から 3 件以上に実施する。</p> <p>(2) ア①体育祭、文化祭への保護者などの参加を増やす。(のべ 50 名以上)(授業参観など学校行事に参加したという保護者評価を H28 年度の 54.9%から 60%以上とする。)</p> <p>②HP の更新を H28 年度と同じく月 2 回以上(年 48 回以上)行う。またブログでの情報発信を行う。</p> <p>(3) ア①教育課程の見直しを進め、現指導體制の再編成の実現(本校には他校にない特徴があるという生徒評価を H28 年度の 75.0%から 80%以上とする)</p> <p>②授業公開の実施、研修への派遣を H28 年度の延べ 10 名を、厳選しながら数値を維持する。</p> <p>③若手教員を中心とした研究授業を年 2 回以上実施する。また、公開研究授業を実施する(教え方に工夫をしている先生が多いという生徒評価を H28 年度の 72.4%から 80%以上とする。)</p> <p>イ①年 3 回の生徒向け訓練、講習の実施及び H28 年度は座学で行った心肺蘇生法の教員研修の実技実習の実施。(災害時の行動について知らされているという生徒評価を H28 年度の 74.6%から 80%以上とする。)</p> <p>②H28 年度年 2 回行った安全点検及び産業医を伴った巡回点検の実施を維持する。</p>	<p>(1) ア①学校教育自己診断結果における「地域や保護者とかかわる機会がある」については 59.4%となり、H28 年度より 2%向上したが、目標には届かなかった。次年度も向上をめざし取り組みを行いたい。(○)</p> <p>②地域小学生対象の出張工作教室については 2 校実施し、参加者数 29 名となった。次年度もさらなる充実をめざして取り組みたい。(◎)</p> <p>③地域機関への作品寄贈を 6 件実施。寄贈できる公共機関が少なくなってきたが、次年度も取り組みを継続。(◎)</p> <p>(2) ア①生徒数の減少に伴い、体育祭、文化祭への保護者などの参加も減少傾向にある。本年度行事等への保護者の参加は のべ 45 名。学校教育自己診断結果(保護者)における「授業参観など学校行事に参加した」は、40.9%となり、H28 年度よりも 14%下回った。行事等の日程を知らない保護者もおり、連絡方法や広報活動などを検討し、次年度は取り組みたい。(△)</p> <p>②HP の更新については、定期的に准校長ブログ(32 回)、教員ブログ(13 回)、学校からのお知らせ等(5 回)、年間を通じて情報発信を行っている。(○)</p> <p>次年度は HP の更新については月 2 回以上(年間 24 回以上)を目標に取り組みたい。</p> <p>(3) ア①学校教育自己診断結果における「本校には他校にない特徴がある」については、H28 年度より 3.4%向上したが、目標とする 80%には 1.6%届かず 78.4%であった。目標達成に向けてより一層特色ある学校づくりに努めたい。(○)</p> <p>②若手教員を中心とした授業公開を 3 回、センター研修等に 10 名、専門技術習得に向けた旋盤技能研修に 1 名、全国自動車教育研究会・研修に 1 名を派遣。(○)</p> <p>③公開研究授業 3 回実施。(◎)</p> <p>学校教育自己診断結果における「教え方に工夫をしている先生が多い」は 86.3%となり、評価指数を 6.3%上回った。次年度も更なる充実をめざして取り組みたい。(◎)</p> <p>イ①生徒向け訓練、心肺蘇生法の教員研修の実技実習を実施。学校教育自己診断結果における「災害時の行動について知らされている」は 72.3%となり、H28 年度より 2.3%下回った。(△)</p> <p>避難訓練参加生徒数が少なかったことが原因として考えられる。授業・ホームルームの時間を利用し、非常時の行動について周知する。</p> <p>②安全点検及び産業医を伴った巡回点検を実施。次年度も継続。(○)</p>
--	--	---	--	--